

東葛支部会報

第21号

千葉工業同窓会東葛支部

2011年5月1日



表紙写真は奈良、お水取りで有名な二月堂の写真です。今回も、34M卒宗像敬司さんの撮影です。

東北地方太平洋沖地震発生する。

平成23年(2011年)3月11日(金曜日)14時46分頃、宮城県三陸沖から茨城県沖にかけての太平洋沿岸でマグニチュード9.0の非常に大きな地震が発生し、7mを超える津波が観測され、甚大な被害が発生しました。

大地震並びに津波で被害を受けた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

今回の地震は単なる、自然災害だけではなく原発(東京電力福島原子力発電所)の被害も大きく、原子力発電所の建物が壊れ、放射能漏れを起こす事故もあり、地震・津波だけではなく、

原発も含めて世界中から注目を集めています。

50年前(1960年)に発生したチリ地震の時の津波被害の教訓が何処まで生かされたのか疑問であり、あの時自然災害を謙虚に受け入れ、町作りをしていたら、この様な2万人~3万人の尊い人命を失う事もなく、最小限の災害で済んだのではないのでしょうか。

今回の教訓を無駄にしない為にも、我われの住む地球のメカニズムをもう一度見直し、何年かに一度来る大地震に脅えるだけで無く、地震に対する普段からの備えが必要である。

北総支部成田新春散歩会に参加して

東葛支部 顧問
26C 立崎 作次

去る、1月23日(土) 標記新春散歩会へ同期の北総支部の早尾支部長から参加勧誘を頂き、私の郷土の近くの佐倉宗吾霊堂のハイキングでしたので喜んで参加させてもらいました。

京成線宗吾参堂駅午前10時集合でした。10時10分前には、参加者14名が勢ぞろい、リーダーの北総支部、成田地区長の竹内さんから、コースガイダンスと若干の注意事項があり、快晴の天気の中でのスタートになりました。

約15分位で宗吾霊堂に到着、参拝者の方にカメラのシャッターをお願いし、参加者全員による記念写真を撮った後、1時間程の自由行動時間となりました。その後は、麻加多神社の東日本一大杉を拝見し、この大木に接見し、自分の80年弱の年齢は、本当に小さな年齢の未熟者であると痛感させられました。時間の関係もあり、宗吾旧宅へ向かい、16代の老人語り人から江戸時代の状況をお伺いしました。

以下の話は、宗吾一代館にあるパンフレットによる内容です。

我が国の義民の代表者として佐倉惣五郎の名はあまりにも有名であります。佐倉宗吾と称するのは、堀田領内佐倉城下の住人であったことと、のちに己の失政を悔いた領主が、宗吾と追認したからで、本名は木内惣五郎と言ひ、慶長17年(1612年)下総国印旛郡公津村(現成田市台町)に生まれました。

寛永より承応年間に亘り佐倉藩国家老による暴政と極度の重税が行われ、このため領民達の苦しみは一通りでなく、他国領に逃れる者もかずしれず、路上に餓死する者も現れて文字通り地獄の様相を呈するに至り、遂に百姓一揆がおこりました。この時、割元地主でありました惣五様は、この状況を見るに忍びず各名主を糾合し、まず佐倉代官屋敷、あるいは佐倉藩重役に減税をお願いしましたが、取り上げられず、それではと、大挙して江戸に上り、領主堀田正信公上屋敷の門前でお願いしても役人に追い返され、ついに意を決して將軍家御用人久世大和守宏之公に駕籠訴をいたしました。願書は7日間後に却下となってしまいました。万策尽きた惣五様は、最後の手段として將軍家への直訴を決意致しましたが、

妻子に罪が及んでは不憫であると、元年12月10日大雪を幸いに江戸表を離れ我が家目指して帰ってまいります。



しかしながら印旛沼の渡し船は鎖で繋がれ惣五様への詮議は嚴重をきわめております。

この時渡し守甚兵衛は、命をかけて船の鎖を断切り惣五様を妻子の許へ送り届けます。

無事に妻子との別れを告げた惣五様は承応元年12月20日、上野東叡山寛永寺への御参拝の四代將軍徳川家綱公に直訴を決行、願書をお取り上げ頂きました結果、佐倉領民はようやくにして塗炭の苦しみから救われることが出来ましたが、直訴の罪に問われた惣五様は、佐倉藩に引き渡され、翌年承応2年(1653年)旧暦8月3日、公津ヶ原刑場において惣五様は、はりつけの刑にされました。

お子様4人は打ち首の惨刑に処せられ、世のため人のため殉ぜられました。

16代目老人の話によると、この様な事を見越し、子孫を保持するために、次女のハツを江戸崎(茨城県)へ姓を変えて養女に出しておいて、後にもらい戻しているのが今日も家系が継続されているとの説明でした。

一行は、その後、田んぼ道を横切り、最後の目的地の甚平衛渡しに向かいました。田園の道が時代の流れか、一直線に盛土されて昔の面影はまったく感じられませんでした。甚平衛渡しの所の石橋鰻店にて昼食を兼ねての懇親会となり、成田新春散歩会のお開きとなりました。

幼少の頃、祖父より聞いていた話が、(野菜、鋤、鰻等々の日用品に重税が行われ、我が集落も大混乱した)今回の散歩により70年以上過ぎた話であるが、現実にかえった様な感じがし、祖父を改めて思い出す事が出来ました。

早尾支部長始め、支部参加の皆さん大変お世話になり、有難うございました。

私は昭和34年3月に千葉工業高校機械科を卒業して、凸版印刷(株)に入社した。現在から50数年も前のことであり、ものの比較対象が難しい過去の思い出である。

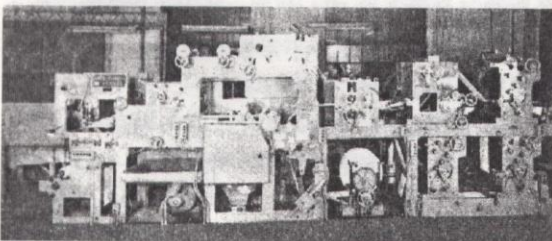
凸版印刷は明治33年に大蔵省印刷局を退官した役人が民間でも有価証券の印刷を行う趣旨で操業を始めた会社である。

入社した当時の資本金は5億円、売上62億5千万円の規模であった。(平成22年3月現在資本金約1050億円、売上約8860億円)



▲勤務していた本所工場

配属となった職場は隅田川の畔に建つ本所工場フォーム印刷課(31年7月から開始、コンピューターの記録調書を印刷)比較的新しい職場であった。



▲ドイツゲーベル社製バリフォーム巻取輪転機

この輪転機の担当補助員として、これから仕事内容を覚えていくことになった。日本経済は高度成長期の岩戸景気(33.7~36.11)と言われ民間企業の設備投資が盛んであり、各社でコンピューターの導入が進み、その恩恵もあって仕事量は1年先まで満杯の状況であった。昔から印刷業は低賃金、長時間労働と言われていた産業であった。初任給は8500円、これに残業手当が加算された。

仕事は際限なくあるため、8時出勤で拘束時間は

16時であったが、通常でも20時とか交代で午前1時45分までの深夜勤務があった。暫くすると従業員を2班に分け12時間勤務で1週間交代の夜勤が始まった。そのため、月末に支給される賃金は基本給の倍は当たり前、時には2万円を越す時もあり、それが励みとなって長時間勤務もあまり苦にならなかった記憶がある。また、夜勤(20時~翌朝8時まで)の時、夏場は家から下駄をはき、地下鉄銀座線で通勤したこともある。工場に近い人は浴衣姿自転車で通勤と現在では想像も出来ない出勤風景であった。

工場勤務は職場内のまとまりがあり何かするときでも一致団結機運が旺盛であった。

当時の楽しみは登山やハイキングが主で特別な思い出となった上高地、涸沢キャンプ場にテントを張り、奥穂高や



▲涸沢キャンプ場にて

前穂高に上り、下りはピッケルを利用してのグリセードで雪面を滑り下りた経験は一生忘れられない思い出の一つとなった。

その他、職場で野球チームを作り、工場内の職場対抗試合等もあり、わずかな休憩時間を練習にはげんだものであった。

そんな勤務が4年間続いていたおり、大和証券(株)の子会社でアジアビジネスフォーム印刷と一緒に、別会社(現在のトッパンフォームズ)になることがきまった。職場の従業員はほとんどの人が職場配置転換(本人の希望も確認された)となった。当時の世の中の経済は低迷期も若干あったが、オリンピック景気(37.11~39.9)、いざなぎ景気(40.1~45.6)、高天原景気(47.1~48.11)と好景気が続き、印刷の仕事量も拡大していた時期で、会社方針として営業部門の充実を図るため工場から営業へ移動する人たちが多かった。自分も学校時代に機械科で学んだことが生かされる職場でないこともあり営業への移動を希望した。

希望が認められ、38年6月から会社創業以来の商品を扱う証券営業部(各社の株券、社債券の受注活動)へ転籍となった。営業部配属後まず一番に感じ

たことは、個人個人がバラバラで相互に助け合うことがない、なぜなのか初めの内は理解不能であったが、日々を送る内に徐々に理解できるようになった。これは工場時代には職場の全員が一致団結して物事にあたり、同じ釜の飯を食った仲と言うがごとく対応していた。営業は得意先とどんな話し合いがなされたのか本人でなければ詳細が分からず、大概のことは本人が処理するしかできないとの違いが分かるようになってきた。

当初はベテランの人についての得意先訪問が続く。仕事の内容がちんぷんかんぷんで何もわからず、先行き不安であったが、自分で希望した道、簡単にやめるわけにいかなかった。

好景気が続く時代、各社は生産設備の増強、資本の充実を図るため増資による資金調達を活発で、株券発行が行われたが、発行時期が決算期(3月、9月)に集中し、この時期は生産能力をはるかに超える受注で得意先の要望と工場の間に入って調整に苦勞したものであった。

担当の株券について先輩からは細かい説明はない。紙幣と同じ大事な印刷物、凸版発祥の商品でもあり、取り扱い管理が厳重で1枚の過不足が許されないものであることは理解できた。

株券について、商法の株券記載事項についてとか、東京取引所の規定、株券を印刷する業者は偽造・贋造を防止する多色細線模様の印刷技術を要すこと、並びに社名・社章等の漉かしを入れた用紙を使用する条件があり、印刷業者は数社に限られていた。

用紙漉造業者も、岐阜、福井、静岡の3ヶ所で、特に昔から和紙を漉造していた地域に限られていた。発行会社の定款に規定されている事項には、授權資本の枠、発行する株券の種類等を自身で学んでいくことしかなかった思い出が残る。

また、得意先からは会社の生い立ちから貴族の凸版、商人の大日本と言われたが、有価証券印刷は偽造・贋造防止のため特殊印刷や技術を必要とし、その製造過程における管理維持のため、大勢の作業員が必要で当然のことながら印刷費用がかさむ、有価証券では後発であった大日本印刷は市場の拡大を図るため、想像を逸する安値攻勢の営業政策には本当に困ったものであった。

色々な個性を持った大勢の人たちと会うため、営業マンは自分の好みにかかわらず、浅くても幅の広い知識を身につけなければならないこと、相手に嫌

われないような行動を常にすることなどが大事である。そんな中でアルコールには全然対応できず、たまの宴席は非常に辛い思い出となっている。

当時の楽しみは仲間とスキーを初め、ホームグラウンドは新潟県石打の丸山スキー場、冬の休日はほとんど民宿に泊まりこみが10数年続いた。ゴールデンウィークには青森八甲田山、宮城県八幡平、年末から正月にかけて北海道ニセコスキー場へと出かけたことも良い思い出である。



▲ 1967年4月
八甲田山スキー場にて



▲ 1968年4月
八幡平スキー場にて



▲ 1969年1月北海道倶知安駅(ニセコスキー場)

このメンバーの中に将来社長になった方がいたが、当時はそんなことは思いもしなかったスキー仲間であった。

印刷の中でも特殊な部門に在籍したため、他の地への転勤もなく幸か不幸かわからないが33年間同じ職場で過ごすことになった。

世の中の制度や環境の変化により、株券の単位株制度、振替決済制度、記載事項の変更等により株券の発行枚数は激減の一方となるばかりとなる。当然ながら営業部として売上減少は認められず厳しい事態となり、得意先の周年行事で発行する社史等も手掛けることがあったが、売り上げ拡大に苦勞したものであった。

そんな折、日本道路公団の発行する通行券に談合疑惑が発生(凸版は関係会社のトッパンフォームズ)関係の印刷会社各社に検察の調査が入り、裁判まで行った事件が起こった。凸版内部でも役所担当の見直しがあり、平成5年から1年間郵政省担当となった。

従来の受注金額は大きくても数百万円、役所か

らの受注は数億円になるものもあり、金額・数量とも多大なもので戸惑いを感じたこともあった。平成6年くじ付き年賀はがきの4等賞品「お便りセット」、各所に送った先でビニールケースが冬場の寒さで割れる事故が発生、全国にまたがっていたためその処置に大変苦労した思い出もある。

その年の4月に元の営業部に戻ったが、昨年の入札で初めて受注した東日本地区競馬場の勝ち馬投票券の寸法が、許容範囲規定より大きく機械に入らないという事故が発生して、東京競馬場、福島競馬場、札幌競馬場や場外馬券販売所の後楽園、浅草、錦糸町等に工場から派遣された人たちと券の回収に駆けずり回る苦い経験を思い出す。

当時は55歳役職定年となり60歳が定年であったが、自分の体調の問題もあって1年間後任に得意先等の引き継ぎ後、56歳をもって凸版印刷を退職した。

また、33年間に渡って一心に手掛けてきた株券が平成21年1月5日から株式の電子化取引となり、

その姿を消したのはいろいろと苦労した事と無事に勤め上げた満足感が交差する中で一抹の寂しさを味合うことになった。



▲ 33年間仕事で追いかけた株券

自分の意思を貫いたこと。千葉工で学んだことはかけ離れた現役時代を送ったが、合縁奇縁（人と人の気が合うのも、合わないのも全て不思議な縁によるものだという事）の素晴らしい人生経験が出来た事に感謝する。

さて、これから先は何が待ち構えているか。

機械屋から電気屋にもなりました

32M 中村 軍治

小生が定年退職したのは、平成11年3月でした。その頃、今思えば早過ぎた様だが、定年の1年前に、ぼけ防止に何かをしなければと考え、通信講座を受けてみようと思案した。

当時新聞広告に良く出ていた、日本資格技能協会（今のユーキャン）の講座の中で「第二種電気工事士」（600V以下）を受ける事にした。これらの講座は労働省指定通信教育（現厚労省）であり、職業訓練費用として補助金が出るという魅力があった。

合計8回の添削課題があり、毎月郵送（15円切手貼付）出来なく11か月かかった。

受講中は現役だったから、学習は主に土日に限り、また当時義母が入院していたので、妻が見舞い中、病院の待合室でテキストを読んでいた。

実技の学習は添付されたビデオテープに依った。電気工事の実務経験が無くても、受験資格があったのです。

機械科の学生時代は、電気一般という教科書で森川先生に教わったが、殆ど身につけていなかったもので、もっと勉強していれば、仕事に役立っていただろうと、後悔したものです。工作機械を製造する会社

で働いていたが、その機械がメカからエレキに奪われてしまったからです。

さて、試験の事ですが、筆記が2.0時間、日本大学生産工学部（京成大久保駅下車）にて、技能はペーパーテスト25分、実地25～35分（室内配線図を画き配線作業をする）、千葉工業大学津田沼校舎で行われた。（平成12～13年にチャレンジ）

結果、筆記は何とか1回でパスしたが、実地1回目は絶縁電線の皮の剥ぎ取りを「鉛筆むき」にした為時間を費やし、時間不足となり配線が完了せず不合格。1年後に再チャレンジ、今度は皮むきを「直角むき」にしたら、5分前に配線完了、やっと合格出来た。この日は折しも、東葛支部の幹事会が高柳であり、その足で参加したものです。

技能試験の指定工具は、ペンチ、ドライバー（+・-）、ナイフ、スケール、ウォータポンププライヤ、リングスリーブ用圧着工具の6種のみで、ニッパーは禁止ですので、電線の皮むきがネックと考え、両刃である電工ナイフの刃先を砥石で念入りに研ぎ、使用中は左親指と人差し指で電線の皮を180°位回して、ナイフを余り回さない様にしたのが良

かったと思う。

こうして平成13年10月4日付で免状が交付された。

元々仕事の為に資格を取ったので無かったが、電気の知識を得た事で、電気が怖く無くなった。家では三路スイッチ(階段の上・下等で点滅)の場所移

動や、台所の照明で蛍光灯の安定器が壊れたので、インターネットでメーカーから取り寄せ、1万円以上安上がりになった。ラビットスタート型でしたが、グロー球スタート型蛍光灯(青白く光る)もあるので、ランプ購入時には気を付けたいものです。

民生委員事情

34M 鳴田 東光

昨年12月に全国で約23万人の民生委員が一斉に改選された。民生委員は200乃至500戸に1名を置くことになっている。また民生委員は児童福祉法という児童委員も兼ねている。

私の団地はマンションの集いで445戸あるので当自治会にも行政から推薦依頼がきたが例に漏れずなり手がいない。締め切りが過ぎても届ける事が出来ず、行政からはなり手がいなかったら自治会長が兼務できないかと脅迫?されたそうだ。

民生委員の欠員は全国で約1割、神奈川県では5%との事で行政も躍起になっている。

そんな事から年齢条件も地域の事情により変更可となっており、以前は初任65歳まで再任70歳であったが、初任68歳まで止むを得ない場合でも70歳くらいまで、再任は74歳までと年々引き上げられてきている。

自治会は已む無く老人会に二度も泣きこんできた。老人会は自治会から援助を貰ったり世話になっているということで、私に「お前は若くて元気がありそうだからお前がやれ」と白羽の矢を立てたのだ。

私は昨夏に老人会に入ったばかりだし、会の中には私より若い人が2~3人しかいなくて、既に70歳である事以外に強く断る理由も見つからず、「ああそうですか」と引き受けざるを得なかった。そうして3年間の任期を歩み始めている。横浜市の統計では老人会の平均年齢は76歳、70歳を過ぎてから老人会に入るというのが50%以上との事である。

ちなみに民生委員の平均年齢は、62歳ということなので案外若いと思う。

民生委員は市の推薦委員会、都道府県知事の推薦を経て、非常勤の特別職の地方公務員として厚生労働大臣から委嘱される。物々しく聞こえるが、ごく普通の市民が無給で行政と地域のパイプ役を担うものである。また、地域のご隠居さんの役割を期待さ

れていると思うが無経験の新人にはそこまでは難しい。

昨夏、高齢者の所在不明問題が社会を揺るがせた。東京都足立区で戸籍上111歳の男性の白骨遺体が見つかったり、引きこもりの高齢者の孤独死、家族による虐待が後を絶たない。

民生委員の役割はますます貴重だと思うが活動は全く難しくなっている。

地区住民の家族構成、障害の有無、公的サービスの利用状況など個人情報を活用したい所だが個人情報保護への過剰反応のせいで、行政からは地区住民の情報は所帯主リストすら提供されない。

私の団地では前任者が2年前に任期途中で急逝され、その後も欠員補充もされていないためなんの引継ぎもない。新任民生委員としては先ず、支援の必要な人、見守りの必要な人を探す、発見するのが仕事になる。

昔は交番のお巡りさんが1軒1軒各家庭を回って家族の様子や構成など聞いていた。今は私が御用聞きに戸別訪問する訳にもいかない。自治会の役員会に出席して周囲で何か気づいた事があったら連絡を貰うようにPRしたり、全戸に回覧を廻したりしている。

情報収集のため、最近ゲートボールも始めた。あまり好きではないカラオケの会にも顔を出すようにしている。

さし当たって当団地には、すぐにケアを要する人は居ないようだ。

従って、今は研修会、福祉に関する講演会、月例の地区民生委員会議、小学生との昔遊びの会、ふれあい給食への参加、時期になれば共同募金や地域のイベントなどのお手伝い等、外部の仕事が主である。

さて、ケアを要するような人がいる場合、常時見守る事も難しい。そこで近所の方に、例えば虐待の気配がないか、悪徳業者の出入りがないかなど見守り

をお願いしたいところだ。

しかし、守秘義務のある民生委員から個人情報には教えられない。女房にも言っては駄目だということになっている。本人の同意があればそれが可能になるが、支援が必要な人ほど引きこもりがちで、助けを求めたがらないと言う問題もある。老人会にも参加しない、民生委員が訪ねても「困っていません」と言う住人にどう接すればよいのだろうか。誰にも気付かれない、誰も助けられない死、虐待、引きこもり。様々な孤立の根には、「他人に迷惑をかけたくない」「迷惑をかけてはいけない」というかつての古い美德？が横たわっているのではないか。

我が街・小金宿

小金宿は、水戸街道千住宿から3つ目の宿場町、県下では「あじさい寺」として多少は知られた地に住を定めて45年が経過。

移住時は常磐線のみ交通機関、その1年後に千代田線が開通し都心への交通が便利になりました。

その頃の北小金駅東口には小さな商店街と八坂神社（現在は再開発により別の場所に移転）北口には昔懐かしいマーケットのみ、それでも満足な時代でした。

その後の街の発展は東京への通勤地として発展し現在の北小金駅周辺が誕生致しました。

又、毎年9月第1土曜、日曜日に行われる『小金宿祭り』には近郊から3万人もの方々が来場、阿波踊り、よさこい、盆踊りにと参加されます、その祭りの手

自分も何時どうなるか、誰にお世話になるか分からない。逆の立場から堂々と「お互い様」と言えるように元気なうちに「お互い様」の預金？をしておきたいと思う。

今だって、若い人に支えられている年金を、少ないの足りないの言いながら堂々と貰っているではないか。

支えあいの社会が機能するには、住民同士自らの情報がある程度オープンにして、いつでも「助けて」と言い合えるつながり、双方向(特に支援される側からも)気軽に「お互い様」と思える意識が重要ではないかと思う。

33C 木間 英一

伝い(交通整理、警備等)にボランティアとして参加して居り、終了後の反省会にて満足感を味わって居ります。

昨年、本土寺までの参道にあじさいの植樹をして本土寺までの参道にも花を咲かせる手段を終了し、2~3年後の開花を期待しています。(本土寺までは常磐・千代田線JR北小金より徒歩10分)

その本土寺(日蓮宗本山のひとつ)の庫裡では様々なイベント 若手歌舞伎、落語会、ジャズフェスタ等の祭事、境内では7月第1土曜日、枝豆(湯上り美人)の会を開催して人気を博して居ります。

春の櫻、あじさい、花菖蒲、秋の紅葉等多彩な行事が行われます。皆様には是非一度足を運んで如何(寓宅は本土寺の裏)

相模風土記

32E 錦織 五雄

相模の大凧

日本全国各地に、凧揚げの風習がありますが、形や大きさ又、揚げ方等いろいろあり、その土地の特徴を出して行われています。

今回、私の住んでいる、相模原市の伝統行事である、相模の大凧についてご紹介してみます。

大凧の歴史

大凧の歴史は、古くは天保年間(1830年頃)からといわれ、本格的に大凧になったのは、明治中期からとされています。

当初は、個人的に子供の誕生を祝って揚げられていましたが、次第に豊作祈願、さらに若者の意志や希望、国家的な意義を象徴するものなど、個人的なものから、地域的なものへと移り、戦前、戦後をとおして新磯青年団が主催して、新戸、勝坂、下磯辺、上磯辺、の4会場で行われていましたが、年と共に移り変わり、昭和44年からは相模原市の6大観光行事に選定され、前記の4地区が毎年交代で実行委員会を組織し、会場は持ち回りで開催してきました。

しかし、社会情勢の変化などから、技術の継承や

会場の確保などが、危惧されるようになり、現在では「相模の大凧まつり実行委員会」によって開催されています。

大凧の題字は、市民から募集し、原字は、相模原市長が直筆しています。

大凧には、その年に因んだ題字が書かれ、昭和39年の東京オリンピック開催の年には、「祝輪」を、平成12年は新世紀に因んで、「紀風」を、そして平成22年は、政令指定都市を目指す、相模原市の新たな、発展を祝して、「祝政」と決まりました。

凧の大きさ

凧の大きさは地区により異なり、次の通りです。

新戸地区・・・8間下磯部地区・・・6間

勝坂地区・・・5間上磯部地区・・・6間

このうち、最大の新戸地区の8間の大凧について、詳細を述べると、次のようになります。

大きさ：8間(14.5m) 四方 重さ：約950kg

綱の長さ：約200m 綱の太さ：直径3～4cm

凧揚げに必要な人員：80～100人

凧揚げに必要な風速：10～15/sec



大凧の揚げ方

凧揚げは、電線、民家の障害物の無い、相模川の広い河川敷きで行い、相模川の河口から上流に向かって吹き上げる、南風に乗って大凧をあげます。

北の風や、風の強さが頻繁に変わるときは危険なため揚げられません。毎年5月の4日、5日の2日限りで、曜日に関係なく天候による順延も行いません。従って2日限りの一発勝負でして、神頼みのなところもあります。

大凧まつりの終わった凧は、どうするかというと、解体して、竹材は農業資材に転用したり、小さな凧を作る為の材料にしたり、紙は翌年の大凧の予備として保管します。

解体してしまうのは、もったいないようですが、大きすぎて保管しておく場所が無いこと、製作技術を伝承する必要から毎年、新たに製作しています。

●交通機関：小田急線の場合／相武台前駅下車(神奈中バスに乗り換え) 神奈中バス相武台下駅下車徒歩約15分(凧揚げ会場)

JR相模線の場合／相武台下駅下車徒歩約15分(凧揚げ会場)



相模の大凧センター

平成15年に「相模の大凧センター」が、相模原市の複合施設「れんげの里あらいそ」内に開設されました。

施設の入口を入ると、2階まで吹き抜けのホールが有り、そこに実物大の大凧が、天井から吊り下げてあります。

1階には、写真で見る相模の大凧の変遷、題字の変遷などが、パネルで展示されています。

又、大凧が出来るまでの工程を、実物そっくりに作ったレプリカで展示されています。

2階は中央の吹き抜けを囲むように、テラスになっていて、壁に、日本国内はもとより世界各国の凧が約150点以上、展示されています。

この大凧センターは年末、年始の数日(12/29～1/3)を除き開館していますので、自由に観覧できます。

●交通機関：小田急線の場合／相武台前駅下車(神奈中バスに乗り換え) 神奈中バス常福寺前下車徒歩0分

JR相模線の場合／相武台下駅下車徒歩約10分

参考資料：涌田久子著「相模の大凧」相武台歴史同好会発行
その他各種観光パンフレット

近年、老人福祉に関しては施設の不足や職員の待遇等でマスコミを賑わしています。特別養護老人ホームへの入居を待っている人も年々増加し、保育所の待機児童並みの状態です。希望者が無条件で入居出来るものでなく、事前に色々と調べ、介護度の認定を受ける必要があります。親や家族に身体的、肉体的に何らかの障害が起き、自宅で介護が出来ないと云う家族の頼る先が、特養と云われている特別養護老人ホームを初めとする各種の施設です。

親をはじめ、本人や家族に何らかの身体的障害等が発生して、初めて介護の必要性が起きます。この時にいきなり老人ホーム等に駆け込んでも直ぐに入居出来ないのです。上記のように行政による介護度の認定を受ける必要があります。

介護認定を受けるかどうか迷う事が生じた場合、まず相談することです。

それには以下の方法であたって下さい。

- **行政に相談に行く**：市町村役場の福祉や高齢者介護の職場が窓口です。
- **地域包括支援センターへ行く**：行政が設置し介護支援を行っています。（福祉施設に同居している場合が多いです）
- **社会福祉協議会に行く**：老人福祉以外に児童福祉等の福祉全般の業務を行っています。
- **介護老人ホーム等に行く**：近隣にこのような老人福祉施設があれば、行くと相談に乗ってくれます。身内や近隣に介護施設勤務者がいたら聞く。

因みに老人福祉施設は公営、民営、NPO等の運営で色々あります。

- 1 介護老人福祉施設：
特別養護老人ホーム（特養）
- 2 介護老人保健施設：老人保健施設（老健）
- 3 介護療養型医療施設：
療養型病床→老健に転換予定
- 4 在宅介護支援施設
- 5 デイサービス施設
- 6 ショートステイサービス施設
- 7 訪問介護サービス施設

4～7は1～3の3つの施設に併設されている場合が多いです。

- 8 介護付き有料老人ホーム
- 9 有料老人ホーム
- 10 グループホーム（利用者自身や利用者の家族が運営している施設もあります）

8～9は外食チェーン店や建設会社、医療関係の会社等民間企業が多く参入しているが、費用は一般のマンションに入居するよりかなり高額になります。利用をする場合はパンフレット等だけで決めず、直接施設に向いて内容を良く確認し、後で費用等のトラブルが発生しないようにする事が重要です。入居後、短期で退所或いは死亡により利用解除をしたが、入居保証金（500万～2000万と云う）高額な金額が返金されないと云うような問題が発生しています。事前に保証金の意味合いを確認し、良く理解してから申し込んで下さい。最近は保証金が無いと云う施設もあるようです。

70の手習い

M34 金子 賢二

陽気の良くなった頃のある晩、70代前後の酒好きが……、

「ハワイアンバンド作ろうか？」

「ちょうど6人そろったよ。ウクレレが3人、スチールギターが1人、それからアコースティックギターとボーカルね」

「介護施設や老人ホームへ慰問に行ったり、自治会

の催しに参加したらきっと楽しいよネ」

などと、酒の肴に近所のスナックで会話が弾んだのは昨年春の頃だったろうか？。当時、71歳を筆頭に女性2人、男性4人が人前で楽しい演奏会をしているのを夢みていました。

「やってみようよ。おじさん、おばさんのバンドが最近流行ってるよネ。70の手習いも楽しいかも？」と、

飲み仲間が勝手な思いをしゃべっていたことを思い出した。

みんなの経験を聞いてみると、ギターとウクレレを持っているのが3人(男2、女1)だけ。それも「昔やったことがある」という程度で、とても「練習すれば何とかなる」なんていう代物ではありません。ましてやメインのスチールギターの経験者はいないし、だれも持っていません。

それでも、月に2度、3度と酒を飲み交わす度に話は膨らんでいき、「スチールギターは金子さんがやるのよ……」ということに話が進んでいったのです。自分も歌は好きだし、音楽を聴くのも好きです。でも、自分が演奏するなんてことを夢にも浮かんできたことはありませんから当然「拒否」です。それでも酒の付き合いは続きました。

2ヶ月くらい経った時、「金子さん、スチールギター買った? ネットで安く買えるよ」「Tさんがね、ギター新調したんだよ。それも奥さんが買ってくれたんだって……」という話を聞かされることになった。そういえば、奥さんも時々同席し、飲んだり歌ったりしてバンドの話聞いていたっけ。

「どうしようか。本当にやる気なのかな?」。夜の独り酒の時やベッドに入って寝つくまでの間、「施設に慰問に行ったら喜ばれるだろうなあ?」なんて想像しているうちに、「ヨーシ、70の手習いとくか」の思いが少しずつ大きくなっていった。昨年6月、インターネットでスチールギターの情報を探して販売会社を見つけた。しかし、どの程度のスチールギターを買ったらいいのか、何の知識もない不安が購入を躊躇させた。

ある晩、仲間がひと言。「7月から月1回の練習をするよ」と宣言。もう迷ってはいられなくなった。

翌日、ネット購入を決意した。翌々日には新品のスチールギターが届いたのです。見たことはあっても触れることもなかった楽器。丁寧に梱包を解いて行く時、ちょっと指先が震えていた。「これが、俺が使うスチールギターか」。しばらく眺めていて気付いた。ハワイアンってどんな曲? チューニングはどうするの? アコースティックギターなら教本はすぐ手に入るが、スチールギターは? またパソコンを頼りに教本探した。やっと見つけたが種類だけ。教本と電子チューナーの購入手続きしたら翌日入荷した。

これで一通りの準備はできた。第1回の練習日まで10日余り。何とか音階くらい弾けるようにならなくては……と教本を開き、チューニングをしてみた。が、そう簡単ではない。教本に添付されたDVDを見てスチールギターの演奏を観ることから始まった。

チューニングはもちろん、ピックの付け方、バーの持ち方等々すべてが初体験。練習初日は、不安の中にも希望を持って全員が自分の担当楽器を持ち寄った。ウクレレ組はコードの弾き方を3人でにぎやかにやっている。自分は一人でチューニングに汗して、とてもコードを弾く余裕はない。2時間はあっという間に過ぎた。

みんなで話し合い、当面は課題曲を決めて各自でパートを練習することにした。次回までには音階くらいは弾けるようになりたいと思った。

課題曲は「アロハオエ」。だが、すぐに曲を弾くことなどとても出来ることではない。教本にしたがって音階からコードの練習を続けて、バーの動かし方、ピックのはじき方を慣らさなければ音楽にならないことを知った。「難しい」が実感だ。各自の事情があって、今年1月までに練習は4回しか出来なかった。メロディーを弾くスチールギターがうまく出来ないとハワイアンにならない。

5人での音合わせなんて何時になったら出来るのだろうか? 夢のまた夢、にならないように「少しずつ練習、少しずつ前進」を目指してはいるが、なかなか思い通りにならないのが現状だ。

「70の手習いは遅々として進まず」を実践中……。



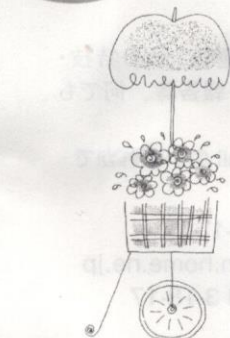
● 皆様の趣味や得意とするものをご連絡下さい ●

会員の皆様は、色々な趣味をお持ちだと思いますが、比較的ポピュラーと思われるものについて、役員の中かで一応の担当者を決めてあります。会員の皆様のご趣味・

得意な分野・特技などを把握し、色々な行事や交流にお誘いしたいと考えています。趣味や得意な分野が一致した方は、それぞれの担当者までご連絡下さい。

- ゴルフ 櫻井 一三 〒279-0022 浦安市今川4-8-7 TEL.047-352-5569
- ハイキング 木間 英一 〒270-0002 松戸市平賀125-10 TEL.047-343-0455
- 釣り 高橋 健一 〒270-0157 流山市平和台5-400 TEL.04-7159-9367
- 囲碁・麻雀 スーパー 鎌形 武久 〒270-2241 松戸市松戸新田21-3 TEL.047-364-5084
- 紙とんぼ 富田 博 〒272-0015 市川市鬼高3-12-39-516 TEL.047-393-0850
- 茶道

今後の予定



東葛支部の予定

- 平成23年
- 4月5日(火)
支部会計監査(高柳・かつみ)
- 5月13日(金)
支部定例会議
(高柳近隣センター)
- 6月12日(日)
第13回東葛支部定期総会
(我孫子・鈴木屋本店)
- 7月15日(金)
支部定例会議
(高柳近隣センター)

本部・他支部の予定

- 平成23年
- 3月13日(日) 南総支部定期総会
(期日未定) 外房支部定期総会
- 4月23日(土) 千葉市西支部定期総会
- 5月8日(日) 京葉支部定期総会
- 5月21日(土) 市原支部定期総会
- 6月4日(土) 北総支部定期総会
- 6月12日(日) 東葛支部定期総会
- 6月19日(日) 千葉市東支部定期総会
- 7月10日(日) 千葉市中支部定期総会

編 集 後 記

支部会報第21号をおとどけします。

今回の会報は編集時に東北地方に大震災が起こり、改めて自然の力を見せ付けられました。大震災で被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、今年度の各地域支部定期総会が順に開催され始めました南総支部を皮切りに、外房支部、千葉西支部、京葉支部、市原支部、北総支部、東葛支部、千葉東支部、千葉中支部と続き、当 東葛支部は6月12日(日曜)我孫子市・鈴

木屋本店で開催されます。多数の出席をお願いします。

ご存知ですか、同窓会本部の会報22号に当支部会報に掲載した「千葉工業歴代校長について」の記事が掲載されていまして、改めて東葛支部の編集委員の企画が認められたと思います。歴代校長先生の記事については、引き続き14代校長先生からの記事を掲載する予定です。

富田 博

新入会員募集と入会手続きについて

東葛支部では、会員を増やしてどんどん組織を大きくしていきたいと思っています。このため、役員の中に「会員増促進委員会」を作って活動しています。

会員の皆様の仲間で、会員資格のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ入会を勧めて下さい。

1. 入会資格 千葉工業学校、千葉工業高校、および同校併設中学校の卒業生、ならびにかつて同校に在勤、在学していた方で支部長が認めた方。
東葛地域に居住している方及び千葉県外に居住している方、または出身が同地域の方、同地域に勤務されている方。
2. 会 費 年会費 3,000円
3. 入会手続 役員へ入会申込みされますと郵便振替用紙をお送りしますから、年会費3,000円を振込願います。

支部会報第22号の原稿募集

東葛支部会報第22号の原稿を募集します。

1. 発行予定 平成23年8月
2. 原稿締切 平成23年7月
3. 内 容 母校の思い出・恩師の思い出・私の職場・私の仕事・私の趣味・私の特技・旅日記・近況・クラス会模様・エッセイ・呼びかけ・イベント報告等、何でも結構です。
4. 投稿方法 卒年科・ご氏名を記入の上、郵便・FAX(自動受信)・E-mailのいずれかでご投稿下さい。
5. 投稿先 編集委員長 坂巻 実 〒277-0921 柏市大津が丘2-4-1
TEL:04-7191-5927 E-mail:minoru.sakamaki@jcom.home.ne.jp
編集委員 土屋孝夫 〒213-0001 川崎市高津区溝口3-18-17
TEL:044-844-2767 E-mail:golf-t@tbn.t-com ne.jp
編集委員 富田 博 〒272-0015 市川市鬼高3-12-39-516
TEL:047-393-0850 E-mail:c-tomi@rr.em-net.ne.jp

東葛支部会報

第21号

発 行	平成23年5月1日
発 行 者	千葉工業同窓会 東葛支部
発行責任者	支 部 長 吉田勝彦
事 務 局	事務局長 木間英一
編集責任者	編集委員長 坂巻 実